

銘柄分析レポート：ジェネリック関連銘柄

1 はじめに

ジェネリックに関するAnswers Newsの記事を引用します。

拡大を続けてきた後発医薬品ビジネスが岐路に立たされています。相次ぐ品質不正は市場の歪みを浮き彫りにし、薄利多売を基本とするビジネスモデルの限界を露呈させました。

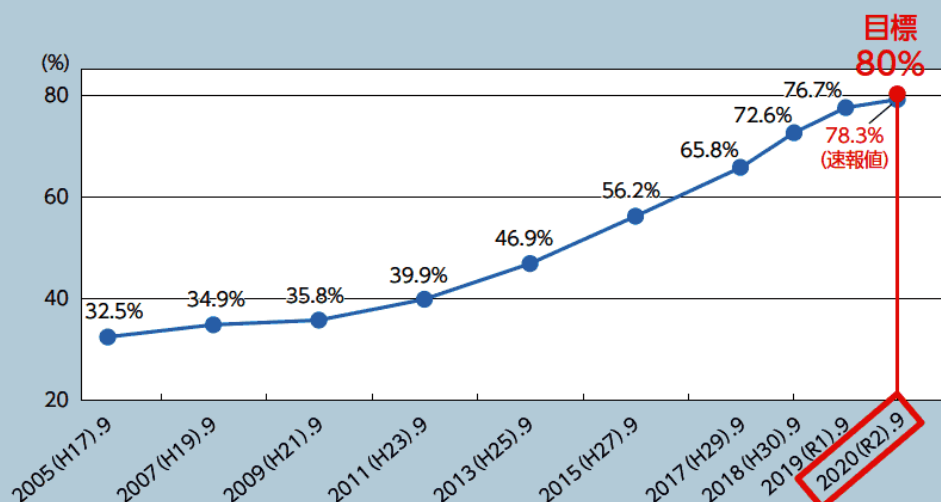
使用割合が8割に達し、量的拡大に依存した成長が見込みづらくなる中、各社は事業の再構築を迫られています。

こういった事態を予測してか、ジェネリック大手3社（サワイグループHD、東和薬品、日医工）は2016年から2020年にかけてそれぞれ欧米の後発品メーカーを買収し、海外展開を本格化させつつあります。

そうは言っても、ここ数年で急拡大した国内市場です。ニッチな分野では、未だにビジネスチャンスが転がっているかもしれません。今回の銘柄分析レポートでは、大手3社以外のジェネリック関連銘柄にスポットを当ててみました。

図表7-2-5 後発医薬品の使用割合の推移と目標

【経済財政運営と改革の基本方針2017】（平成29年6月9日閣議決定）（抄）
⑦薬価制度の抜本改革、患者本位の医薬分業の実現に向けた調剤報酬の見直し、薬剤の適正使用等
2020年（平成32年）9月までに、後発医薬品の使用割合を80%とし、できる限り早期に達成できるように、更なる使用促進策を検討する。



注)「使用割合」とは、後発医薬品のある先発医薬品及び「後発医薬品」を分母とした「後発医薬品」の使用割合をいう。
厚生労働省調べ

出典：厚生労働白書